

八女市予約型乗合タクシー

# 「ふる里タクシー」



2017.10.31 地域公共交通活性化セミナーin福岡  
「八女市における取組  
～大臣表彰受賞後の現状～」

福岡県八女市

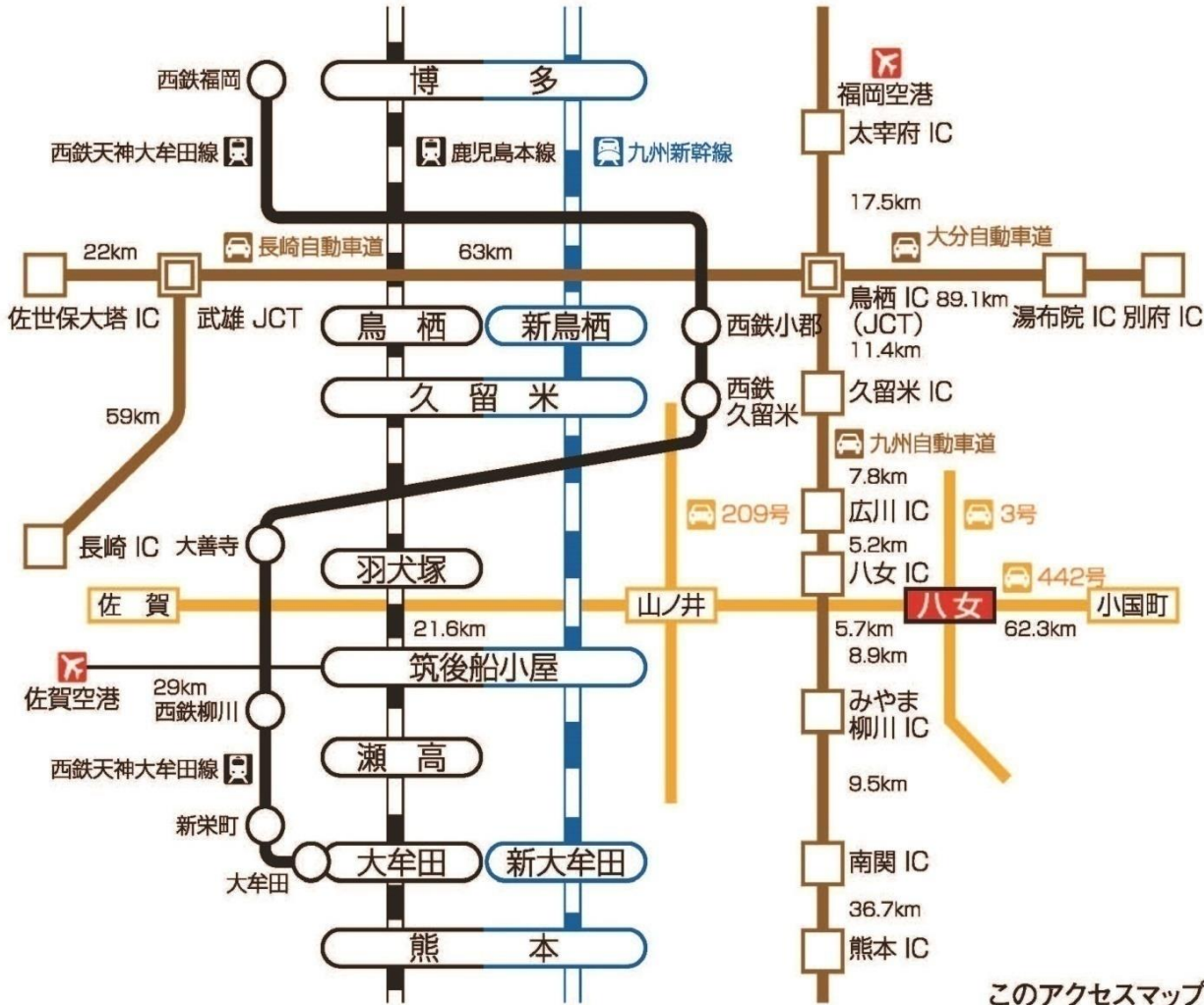
# 《発表の流れ》

1. 八女市の概要
2. 大臣表彰受賞について
3. 乗合タクシーの概要
4. 運行実施のポイント
5. 利用状況
6. 当面の主な課題
7. 課題の解決に向けて

# 1. 八女市の概要

- **位置** 福岡県南東部(熊本、大分との3県境)
- **合併** H18に1町、H22に2町2村を編入合併
- **面積** 482.44km<sup>2</sup>(福岡県で2番目の面積)
- **地形** 矢部川源流～中流域の山間地域
- **産業** 農業(茶、菊、いちご、みかん、キウイ等)  
伝統工芸(仏壇、提灯、竹細工等)
- **人口** 64,408人(H27国調)(H22比▲4,649人▲6.7%)
- **高齢化** 高齢化率33.3%(H29.3末住基)
- **交通** 民間路線バス2社8路線(鉄道はない)

# ■ アクセスマップ



このアクセスマップ・路線図などは、平成23年現在の情報です。

## 2. 大臣表彰受賞



M部長

平成25年 地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰 平成25年9月18日

## 取組み(功績)の概要 『乗合タクシーを導入して交通空白地域を解消し、同じ経費で市民生活の質向上を実現』

- 既存の路線バス、患者輸送車、福祉バス等の見直しや、乗合タクシーの導入で、地域の公共交通を抜本的に再編した。
- 地域間の移動は路線バス、地域内の移動は乗合タクシーと役割分担し、交通空白地域を解消した。
- 市町村合併前の各市町村の交通対策予算と同等の額で、高水準の交通施策を実現し、飛躍的な効果を上げた。
- アンケートや広報取材等で、市民が生活の質の向上を実感していることが明らかになった。

### ○事業内容

#### 1. デマンド型乗合タクシーの運行

・市内に点在する交通空白地域の解消に向けデマンド型の乗合タクシーを導入。



#### 2. 幹線路線バスを維持し地域間移動を確保

・幹線路線バスは確保維持し、支線は朝夕の通勤通学用にダイヤ改正。  
・旧市町村を越える移動は幹線路線バスを利用。

#### 3. 導入前と同等程度の経費で飛躍的な成果

・合併前の市町村が協議して地域の公共交通連携計画を策定。別々の交通政策を再編統一することで、同じ経費で飛躍的な効果を上げることに成功した。

#### 4. 市民が生活の質の向上を実感

・平成23年8月の市民アンケートで、利用者の80%が「暮らしが便利になった」、38%が「外出機会が増えた」と回答。市民に交通空白解消と生活の質の向上を実感していただいた。  
・平成24年7月の九州北部豪雨で幹線道路が寸断され、路線バスが運休した時も、乗合タクシーは1日も休まず運行し、災害にも強く市民生活の安心安全を支える乗り物としても高評価を得ている。

**「大災害で途中の道が寸断された中、迂回しての送りに感謝しています。」**

横アサ子さん (古賀野)

一人暮らしで、黒木町中心部の病院や買い物によく利用しています。電話予約は、予約センターの対応が丁寧なので、いつも私が担当しています。

今回の大災害で、途中の道路が断れてしまった時も、迂回を依頼かけて送っていただきました。この出来では、ふる里タクシーがなかったら生活ができなかった、本当に感謝しています。

**九州北部豪雨災害後も「ふる里タクシー」は休むことなく運行しました。**

「利用者の皆さんの安否と生活支援がとて心配でした!」

鎌山高志さん (東本エリア 10号車運転手)

災害後、自宅から孤立状態の星野村へ、うきは市経由で3時間かけてやっと思いでたどり着きました。目を覆うばかりの大惨事に、まず利用者の皆さんの安否と生活支援のため、四輪駆動車で家を取り、走行ルートの確認と、車庫に泊まりこんで対応しました。

この事業費だからこそ、いつも利用してもらっている皆さんの行動力や汗を大事にしながら、ふる里タクシーにしかできない支援を軒に軒と、毎日奔走しています。

「夫婦で利用していますが、安心して暮らせる地域交通の主役です!」

黒谷典正さん・キリエさん (飯塚)

「暮らしが便利になった」と回答

80%の人が

「暮らしが便利になった」と回答

八女市地域公共交通タクシー アンケート調査結果報告書

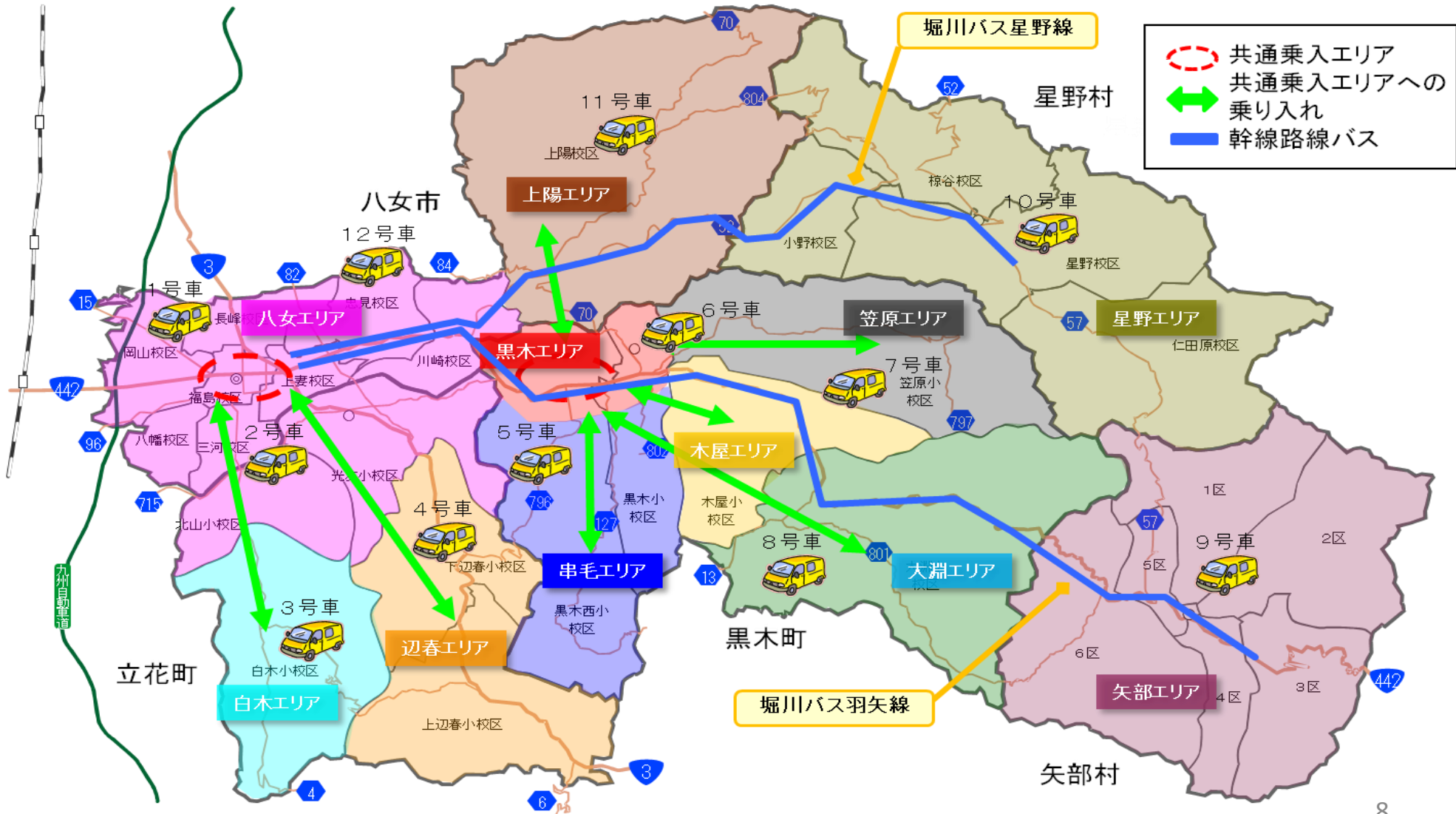
1回の乗車につき 300円

自宅玄関から目的地玄関へ

# 3. 乗合タクシーの概要

- ・ 運行開始 H22年1月(一部)※全域は同年12月
- ・ 運行方式 ドアツードア方式予約型乗合タクシー
- ・ 運行日 平日のみ(土日、年末年始運休)
- ・ 運行便数 8便(午前8,9,10,11時 午後1,2,3,4時)
- ・ 予約受付 7時30分～16時30分 オペレーター4人体制
- ・ エリア数 11エリア(旧市町村をベースに)
- ・ 運行台数 12台(金曜のみ13台)10人乗ワゴン
- ・ 登録者数 13,066人(人口の20.1%)※H29.3末
- ・ 利用者数 年52,810人(217人/日)※H28年度
- ・ 利用料金 1回の乗車につき300円 (一部400円)

# ■運行エリア図





地元のスーパーで待機する「ふる里タクシー」  
店内に入ってみると...





スーパーの一角が待合場所



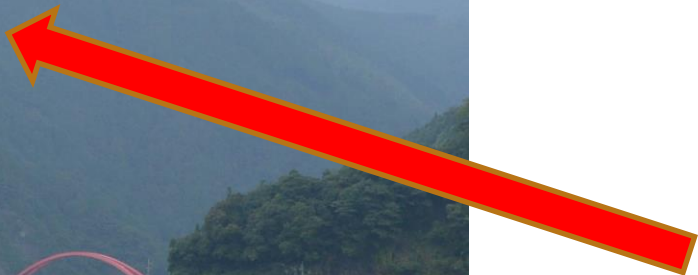
箱買い！



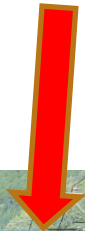
まさにドアツードア

乗合タクシーが玄関前まで入らない...  
お宅までの坂道を200m





この辺りにも集落が...



離合も難しい山間部の集落



標高も高くなっていきます

# 4. 運行実施のポイント

## ・路線バスとの調整

幹線系統の確保⇒旧市町村間の移動は路線バス  
運行重複を回避⇒フィーダー系統は朝夕に特化

## ・交通政策の統一

合併前の市町村が実施していた、コミュニティバス等  
(福祉バス、予約バス、患者輸送車)を全廃

## ・エリアを設定し移動範囲を制限

コアな地域生活圏維持、バスとの調整、1時間1便確保  
⇒旧市町村をベースに設定

※便数確保のため、更に細分化(移動制限)したエリアも

## ・旧市町村の交通対策費の予算枠内で実施

路線バス見直しやコミバス全廃で捻出した予算で導入

# ■運行実施のポイント（解説）

Q 路線バスとはどのような調整をしたのか？

A 幹線系統と支線系統との役割分担を明確にした。

- ・幹線系統の確保

  - ⇒旧市町村間の移動は路線バス

- ・運行重複を回避

  - ⇒支線系統は昼間を無くし朝夕運行に特化

Q なぜ「ドアtoドア方式」を導入したのか？

A 生活の質を維持向上させるため、外出機会を増やしたい。

- ・公共交通空白地域では自家用車がないと生活が困難

- ・運転が困難になった高齢者にバス停まで歩かせるのか

- ・自家用車に近い使い勝手で、通院も買い物も。

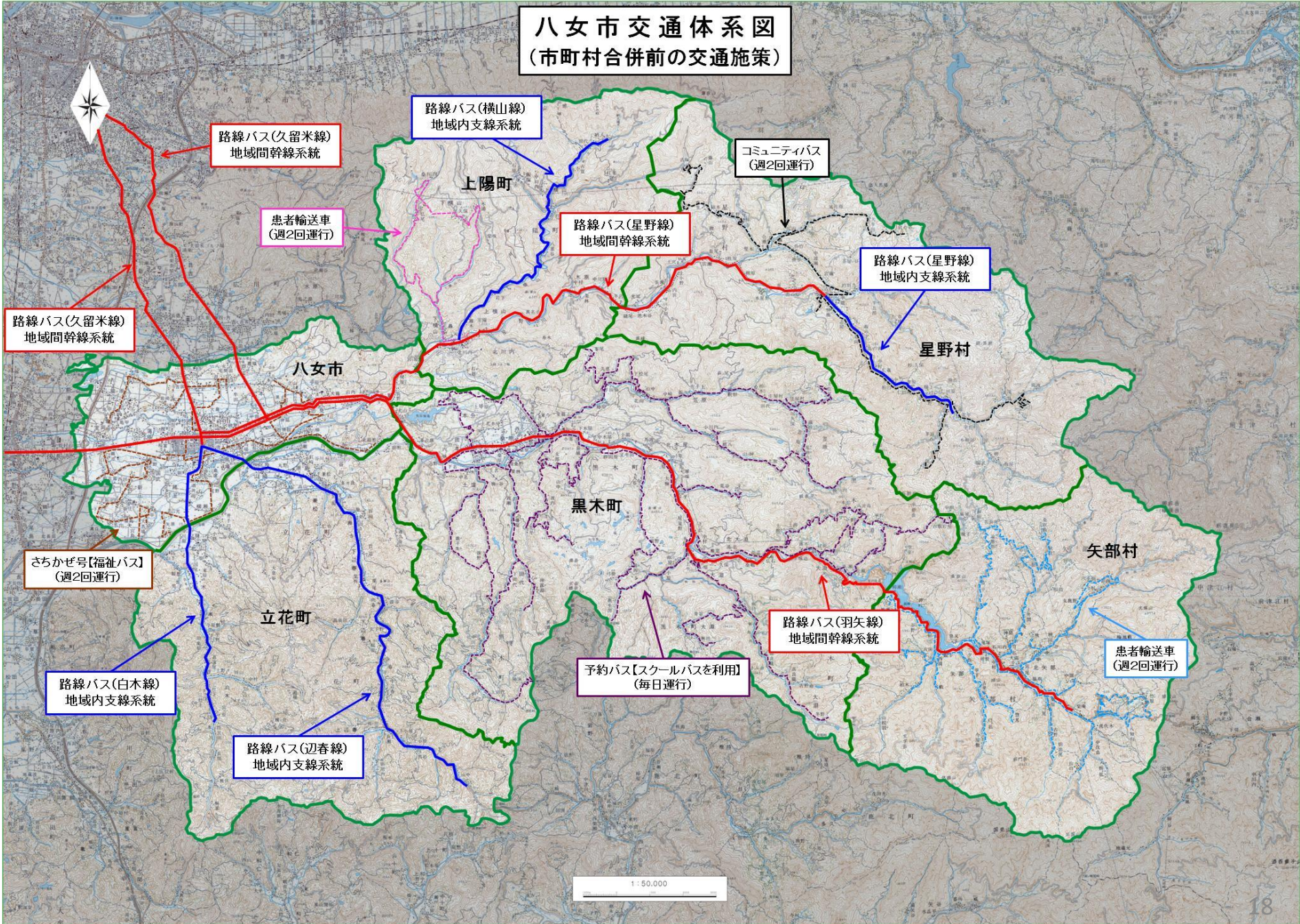


**Q 合併前の市町村の交通政策からどのように転換したのか？**

**A 旧市町村ごとに運行されていたコミュニティバス等を全廃して乗合タクシーに統一した。**

八女市	福祉バス	週3回、10人乗ジャンボタクシーを集落と市中心地域を1.5往復。【100円】
黒木町	予約バス	通学用バスを活用して、電話予約制の路線バスを1日3便運行。【200～600円】
立花町	未実施	
上陽町	患者輸送車	週2日、集落と町中心地域を1往復。【無料】
矢部村	患者輸送車	週2日、集落と村中心地域を1往復。【無料】
星野村	コミュニティバス	同上。実質は患者輸送車

# 八女市交通体系図 (市町村合併前の交通施策)

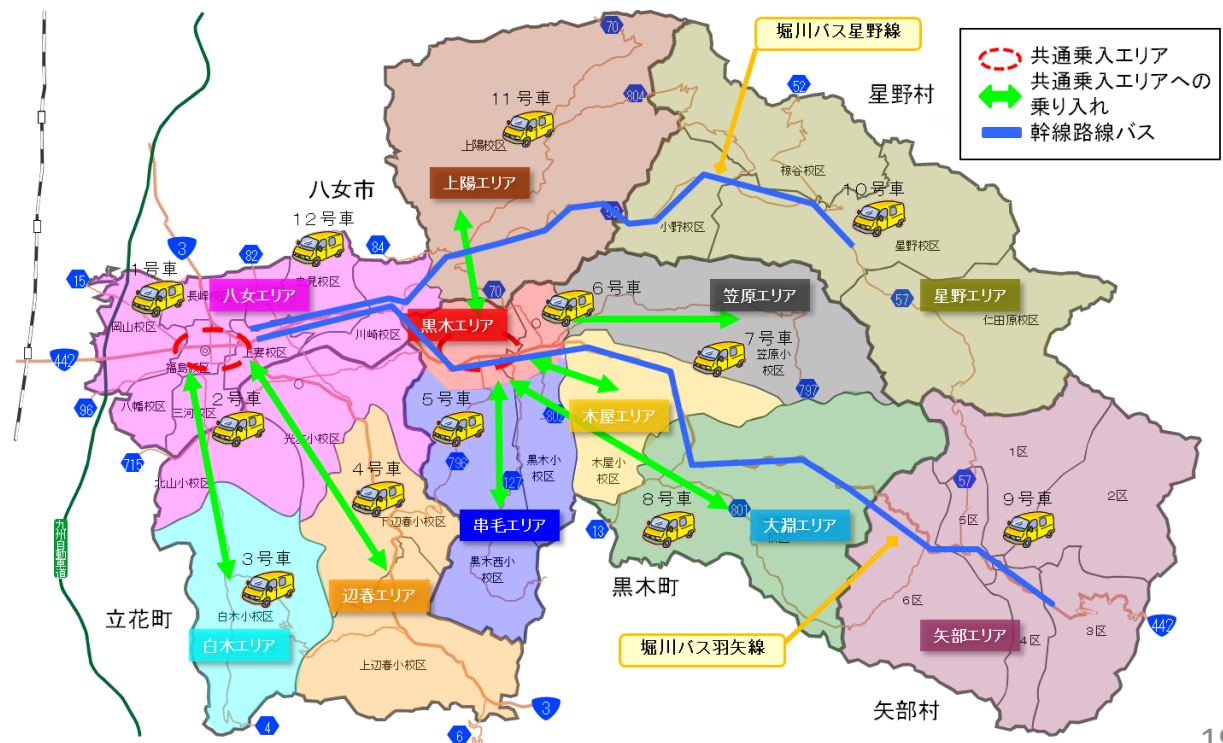


Q なぜ「エリアを設定」したのか？

A コアな地域生活圏を維持したい。

- ・旧市町村にある医院、商店、金融機関、郵便局を維持  
※高齢者の暮らしを支える、かかりつけの医院、行きつけの商店
- ・最小の台数で1時間1便を確保したい  
※そのため更に細分化(移動制限)したエリアも…

## ■運行エリア図 (再掲)



## Q 交通対策の予算は？

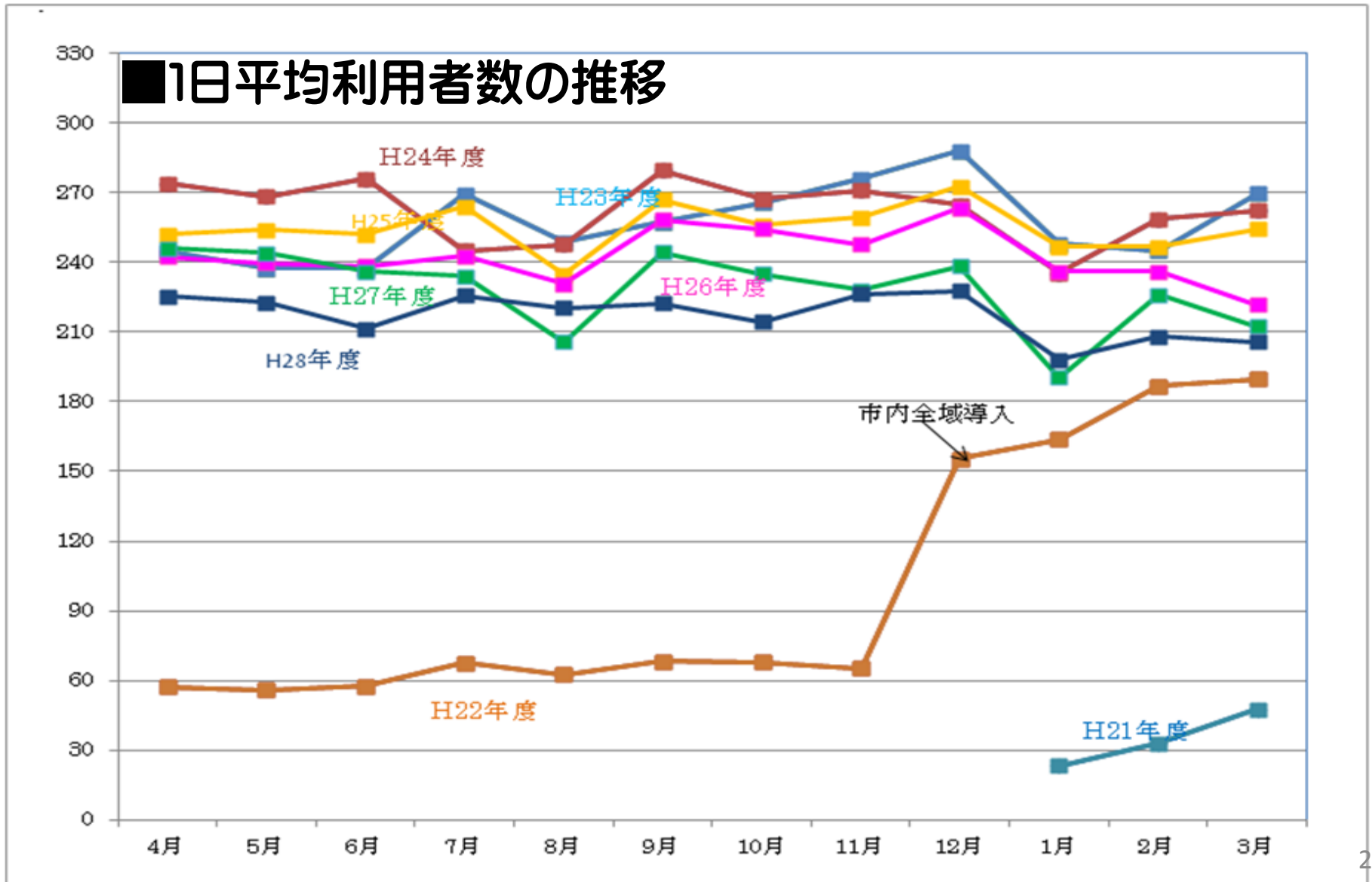
A 旧市町村の交通対策費と同等額で実施した。

### ■運行経費の比較

(単位:千円)

交通機関名	導入前(H22年度)	導入後(H23年度)	比較
路線バス補助金	53,350	38,843	△14,507
コミバス委託料	36,907	0	△36,907
乗合タクシー経費	-	62,070	62,070
小計	90,257	100,913	10,656
収入 (運賃・国庫補助)	△6,286	△13,014	△6,728
合計	83,971	87,900	3,929

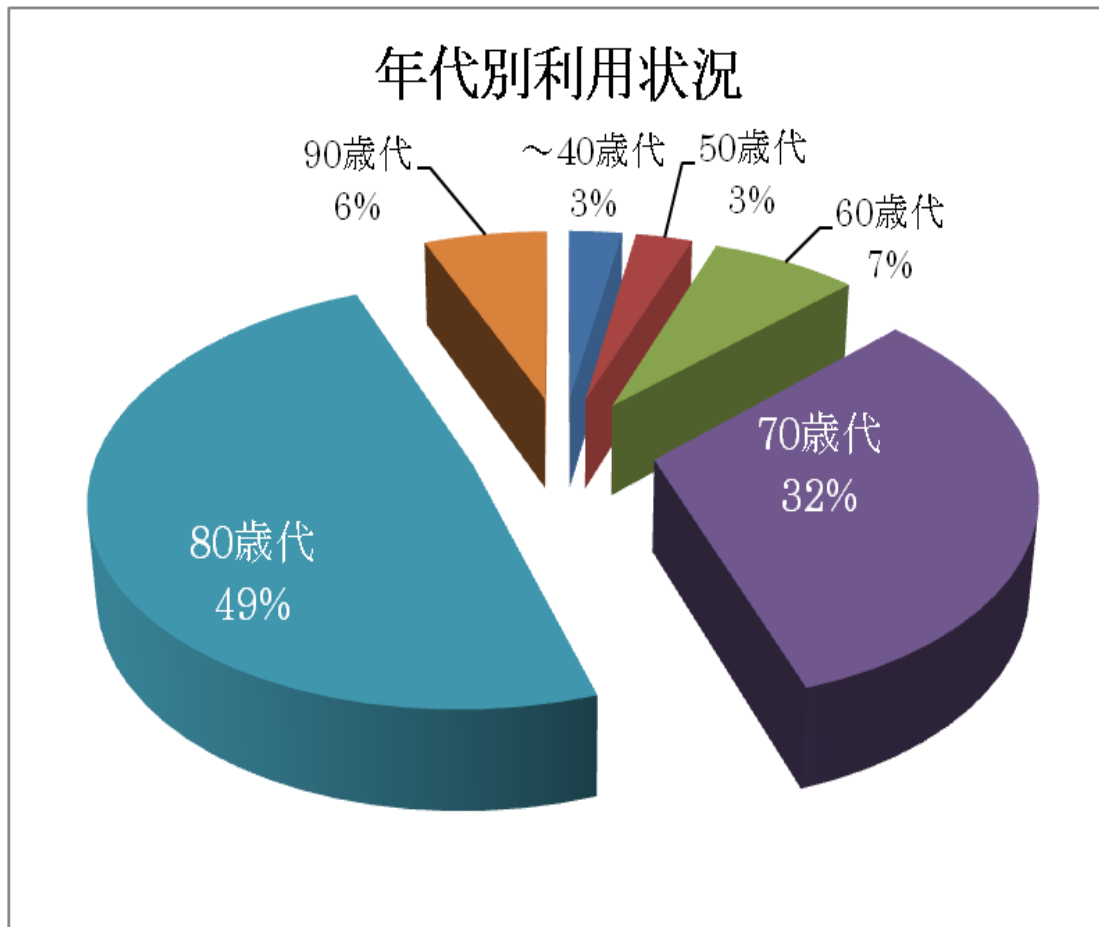
# 5. 利用状況



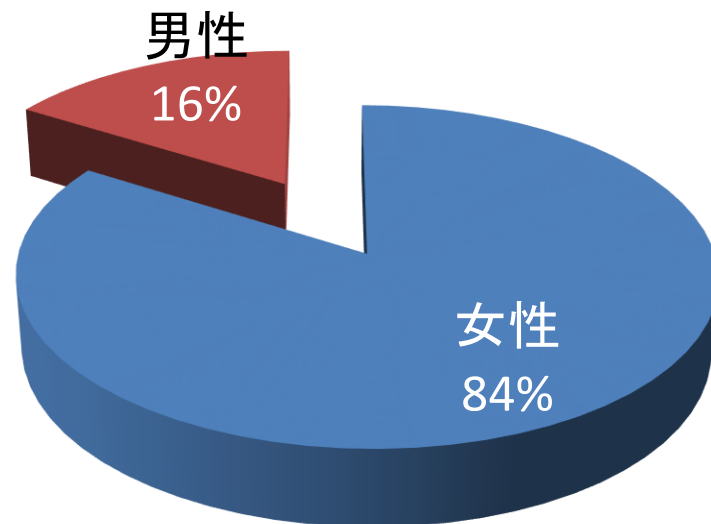
## ■利用者層

### ●年齢

87%が70歳以上



### ●性別



※住基人口男女比

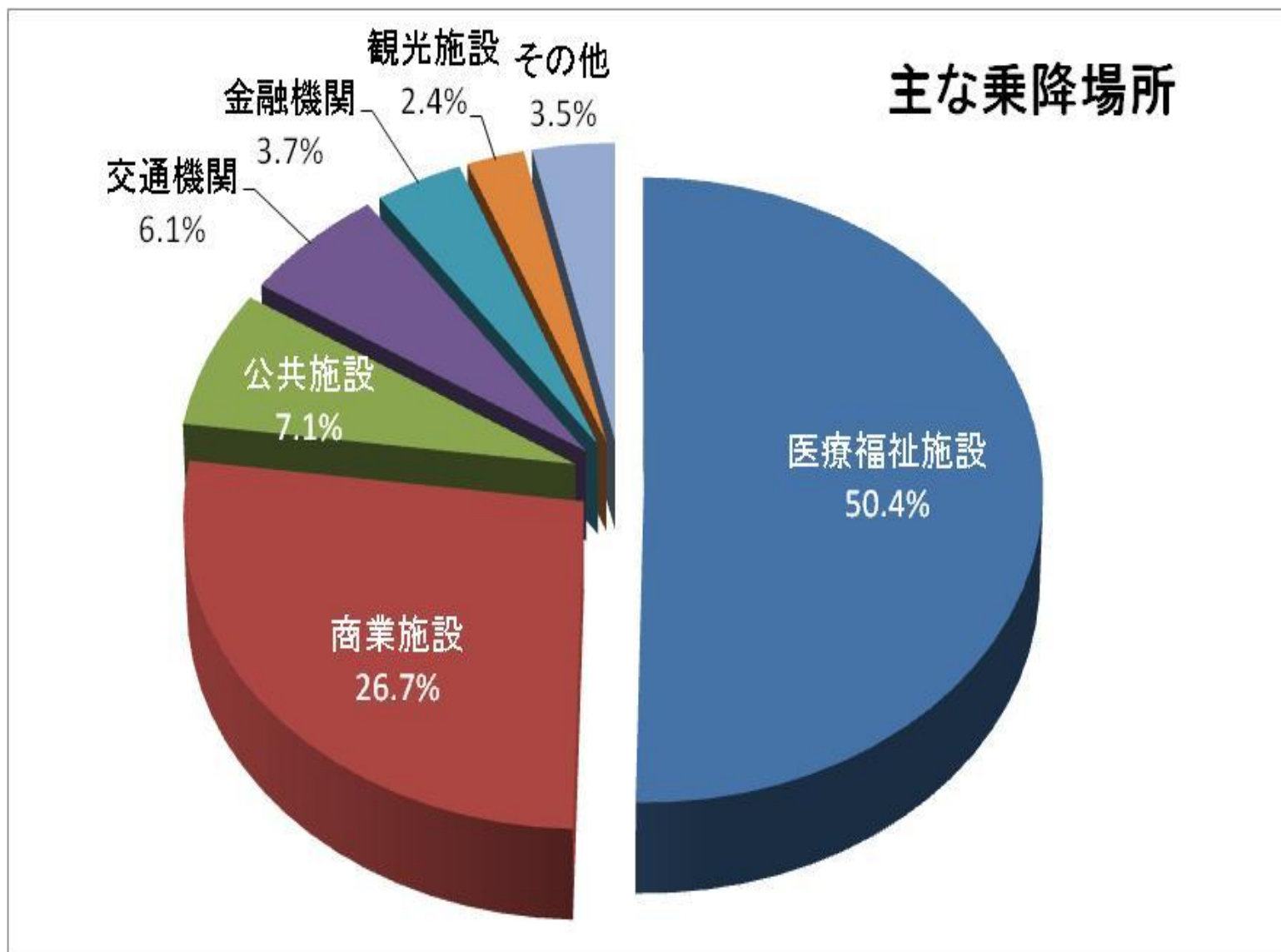
70歳代 男42% 女58%

80歳代 男36% 女64%

(H29年3月末調査)

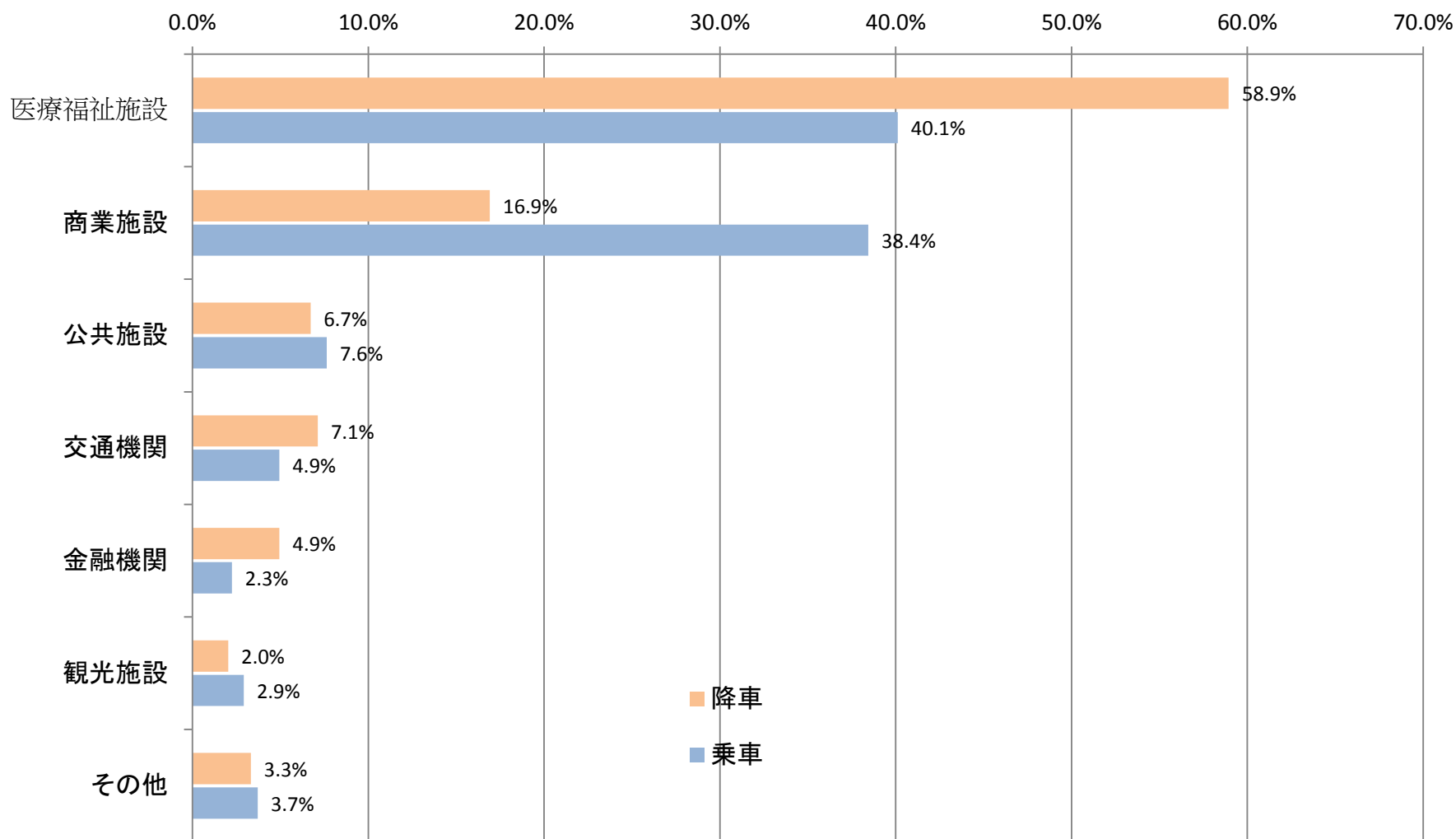
## 乗降場所

※乗降件数の総計から算出



(H29年3月末調査)

# ■乗る場所、降りる場所で見ても



(H29年3月末調査)



## ■アンケートで「市民の支持」を確信

《利用者向けアンケート》 ※利用経験者400人へ郵送 285人回答（回収率71%）

- 問1 予約受付時間 78%の方が「納得」
- 問2 運転日 51%の方が「困っていない」、38%の方が「困っている」
- 問3 便数 75%の方が「ちょうど良い」
- 問4 始発時間 85%の方が「ちょうど良い」
- 問5 昼休み 73%の方が「正午のままでいい」
- 問6 最終便の時間 52%の方が「ちょうどよい」、39%の方が「早すぎる」
- 問7 利用料金 89%の方が「納得」
- 問8 移動できる範囲 77%の方が「困っていない」
- 問9 目的地までの時間 83%の方が「困っていない」
- 問10 バスとの乗り継ぎ 64%の方が「支障がない」
- 問11 車両の乗り降り 93%の方が「満足」
- 問12 運転手の対応 91%の方が「満足」
- 問13 予約センターの対応 89%の方が「満足」
- 問14 **外出機会の変化 38%の方が「増えた」**
- 問15 **暮らしの便利さ 80%の方が「便利になった」**
- 問16 乗合タクシーの必要性 94%の方が「必要」

《未利用者向けアンケート》 ※未利用者100人へ郵送 57人回答（回収率57%）

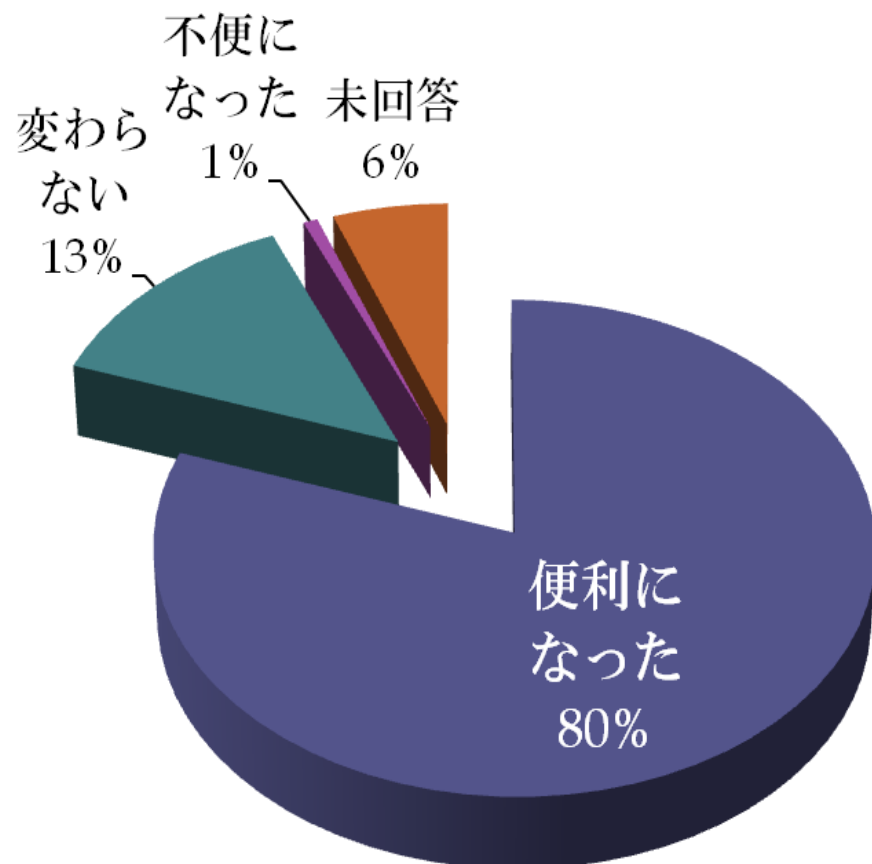
- 問1 利用していない理由 58%の方が「自分で運転」、39%の方が「家族が送迎」
- 問2 今後の利用予定 72%の方が「今後利用する」
- 問3 乗合タクシーの必要性 87%の方が「必要」

（アンケート実施時期 H23年8月）

## ■「暮らしが便利に」8割が実感

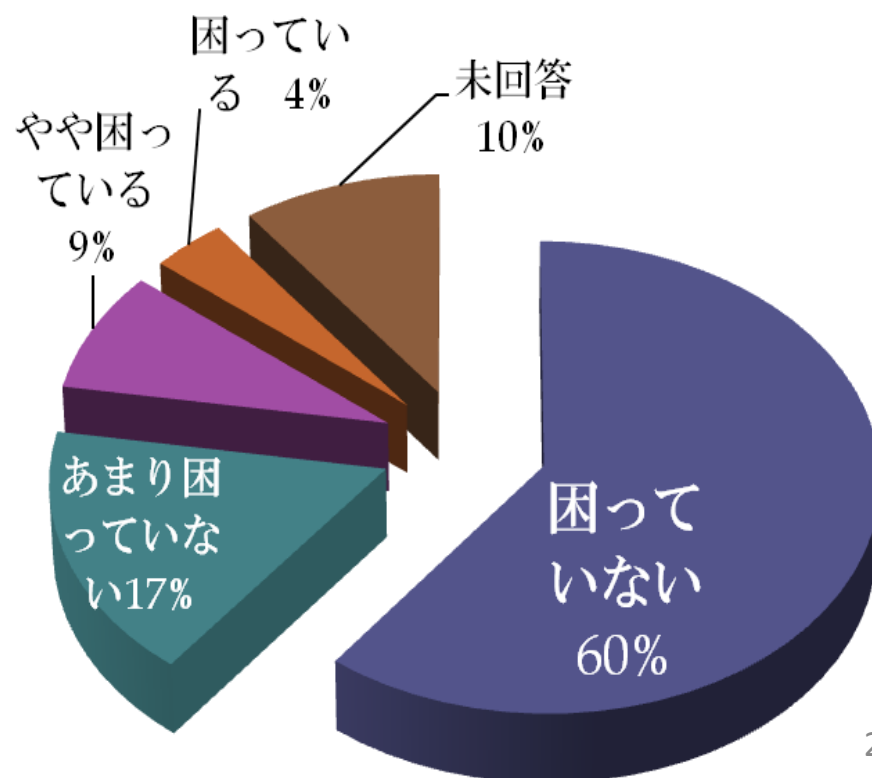
《問15》 乗合タクシーの便利さについてお尋ねします。

乗合タクシーが出来て、毎日の暮らしが、便利になったとお感じですか。



《問8》 移動できる範囲についてお尋ねします。

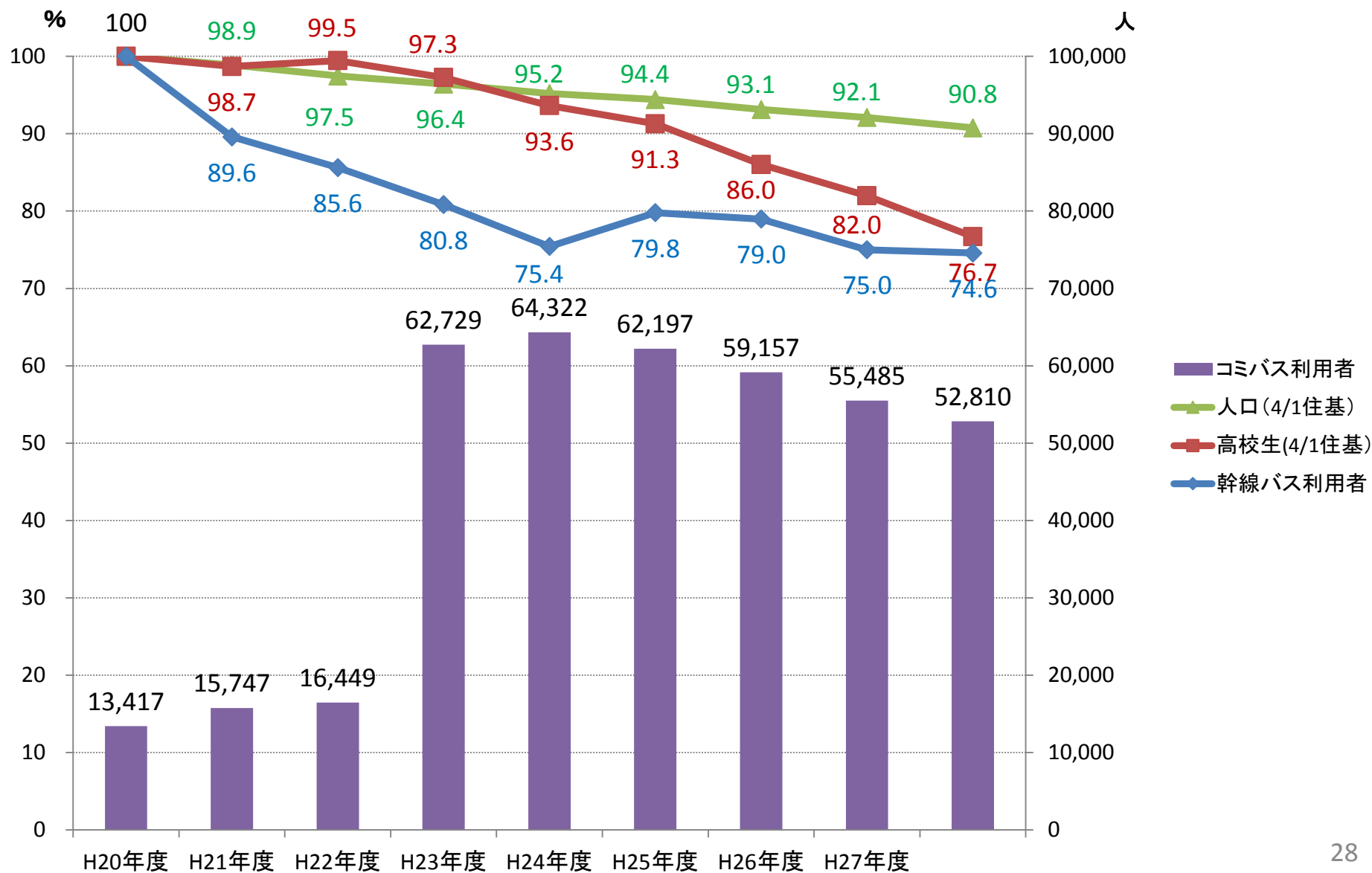
原則として、同じエリア内での利用とさせていただいていますが、日常生活にお困りはありますか。



# 6. 当面の主な課題

①利用者数の維持	1日平均利用者数は、平成24年度の262.5人をピークに減少。平成28年度は217.3人となり過去最少。
②利便性の向上	運行日(特に土日)拡大の声が増加。 路線バスとの乗り継ぎに対する不便感
③安全運行の確保	ドライバーの運転マナー等
④運行経費の抑制	事業の効率化
⑤乗合タクシーとその他の公共交通との共存	乗合タクシーに乗車できない方(自力で乗車できない方など)への対応

# ■人口と公共交通利用者の推移



## 利用者向けアンケート(問1～問10)

	設問	H23.8 (285/400 71%)	H28.10 (327/500 65%)
問1	予約受付時間	78%が納得	—
<b>問2</b>	<b>運行日</b>	<b>51%の方が「困っていない」、38%の方が「困っている」</b>	<b>40%、54%</b>
問3	便数	75%の方が「ちょうど良い」	70%
問4	始発時間	85%の方が「ちょうど良い」	84%
問5	昼休み	73%の方が「正午のままでいい」	73%
問6	最終便の時間	52%の方が「ちょうどよい」、39%の方が「早すぎる」	52%、39%
問7	利用料金	89%の方が「納得」	88%
問8	移動できる範囲	77%の方が「困っていない」	75%
問9	目的地までの時間	83%の方が「困っていない」	79%
問10	バスとの乗り継ぎ	64%の方が「支障がない」	69%

問11以降は次ページ

## 利用者向けアンケート(問11～問16)

	設問	H23.8 (285/400 71%)	H28.10 (327/500 65%)
問11	車両の乗り降り	93%の方が「満足」	87%
問12	運転手の対応	91%の方が「満足」	85%
問13	予約センターの対応	89%の方が「満足」	80%
問14	外出機会の変化	38%の方が「増えた」	34%
<b>問15</b>	<b>暮らしの便利さ</b>	<b>80%の方が「便利になった」</b>	<b>74%</b>
問16	乗合タクシーの必要性	94%の方が「必要」	85%

## 未利用者向けアンケート

	設問	H23.8 (57/100 57%)	H28.10 (275/500 55%)
問1	利用していない理由	58%の方が「自分で運転」、39%の方が「家族が送迎」	56%、32%
問2	<b>今後の利用予定</b>	<b>51%の方が「今後利用する」</b>	<b>73%</b>
問3	乗合タクシーの必要性	87%の方が「必要」	—

# 7. 課題の解決に向けて

①利用者数の維持	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域に出向いて制度の周知強化</li><li>● 乗合タクシー等の利用方法、お試し乗車など</li></ul>
②利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>● 路線バスとの乗り換えポイントの改善</li><li>● 市事業等で活用(期日前投票、健康体操送迎、地域毎の利用方法など)</li><li>● 車両規模の見直し</li></ul>
③安全運行の確保	<ul style="list-style-type: none"><li>● 新システム導入(H27年9月導入済) ⇒時間が見える配車システムで無理な配車を予防</li><li>● 交通事業者(委託先)との定例会議の開催</li><li>● 車両規模の見直し(再掲)</li></ul>
④運行経費の抑制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 新システム導入によるオペレータの負担軽減 ⇒人件費削減(6人→4人)</li></ul>
⑤乗合タクシーとその他の公共交通との共存	<ul style="list-style-type: none"><li>● 福祉有償運送等の役割の明確化や実施体制の強化</li><li>● 結節する幹線路線バスの利用環境の改善</li></ul>
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域公共交通対策担当者の確保</li></ul>

→網形成計画策定(H28~29年度)

# ■おばあちゃんたちの笑顔いいですね。



ご清聴ありがとうございました。

八女市企画振興部 地域振興課 定住対策係

参事補佐兼係長 石橋 信輝

〒834-8585 福岡県八女市本町647

TEL 0943-24-8162 (内線543)

FAX 0943-22-2186

E-mail teijyutaisaku@city.yame.lg.jp